

2月28日 協調学習アクション・リサーチプロジェクト
半日体験ワークショップ
ご参加の皆様

2009年3月25日

ご報告

東京大学大学発教育支援コンソーシアム
三宅なほみ

2月28日には協調学習体験半日ワークショップにご参加ありがとうございました。ご報告と、書いていただいたワークノートのご返却がとても遅くなってしまいました。コンソーシアムとしてはその後、CoREF のポータル開発技術に関するワークショップ(3月19日)と、コンソーシアムに参加する大学の今年度の事業成果発表会(3月20日)を行いました。そちらにも参加してくださった方々、ありがとうございました。

2月28日のワークショップに関して、皆様から回収させていただいたワークノートを少しまとめてみました。

まず、「水」そのものに関して、最初に書いていただいた「水と聞いて連想するもの」と最後に書いていただいた「水について今考えていること」とを比べてみますと、次のページの図1のグラフのように、最初は日常的なコメント(「せせらぎ」「大切なもの」など)が多かったのが、最後には資料の内容を取り入れたちょっと科学的な記述(「物質として特異なもの」「偶然できた貴重なもの」など)の表現が多くなっていました。そういう資料を読んでいたのですから当然といえば当然ですが、「なんでもよいのでお書き下さい」というお願いに対して資料で読んだ表現がすっと出てくるようになった理由のひとつは、皆さんが読んだ内容を自分のことばを使って話し合ったこと、言い換えれば「自力で自分のものとして発言するチャンスがあった」からだったのではないかと、と思います。

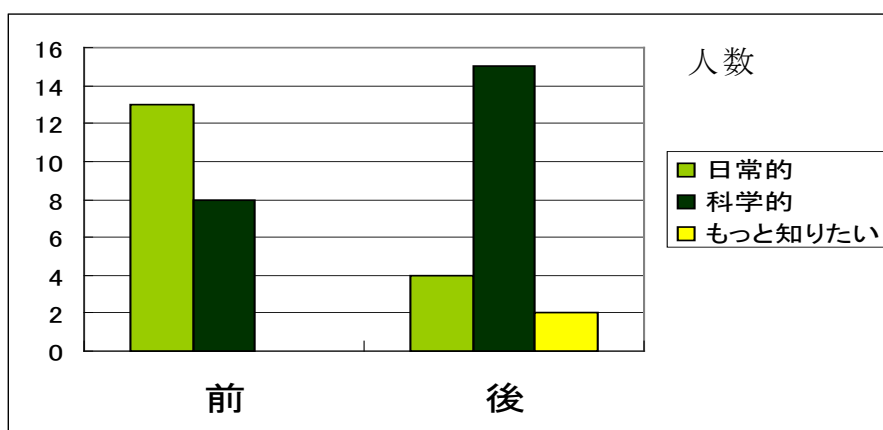


図1 ワークショップの前後に、「水」に関して書いていただいた記述が日常的な表現(グラフの明るい緑)だったか、資料にあったような「科学的」な記術(グラフの濃い緑)だったか、を比較したグラフ

最後に書いていただいた中には、「もっと知りたい」と書かれた方も2名ありました。

途中、エキスパート・グループ活動(分担して同じ資料を読んで話し合っていたところ)の後、やってみた感想を伺いました。その際に書かれていたことを見てみますと、「同じ資料を読んでいたはずなのに、読み方が違う」「各自の興味はばらばらだけど、それぞれ理由がある」など、資料の内容よりは他の人の考え方や意見に対してコメントされた方が多かったようです。それぞれのコメントをなされた人数を表にしたものが表1です。

表1 エキスパート・グループ活動後のコメントタイプ別人数

他人の意見、考え方に言及した人数	10
資料の内容に言及した人数	6
自分の説明の仕方に言及した人数	5

こういう気づきが、この後の皆さんの活動を活発にしたのではないかと思います。

もう一つ、グループ活動についてどう思うかについても、最初と最後に伺いました。最初は「ディスカッション」「小学校で班活動」など、単語や節で答えてくださる方が多かったのですが、後になると、「意見を文章で説明する方が多くなり、しかも良いところと悪いところを両方上げる方が圧倒的に多くなりました。

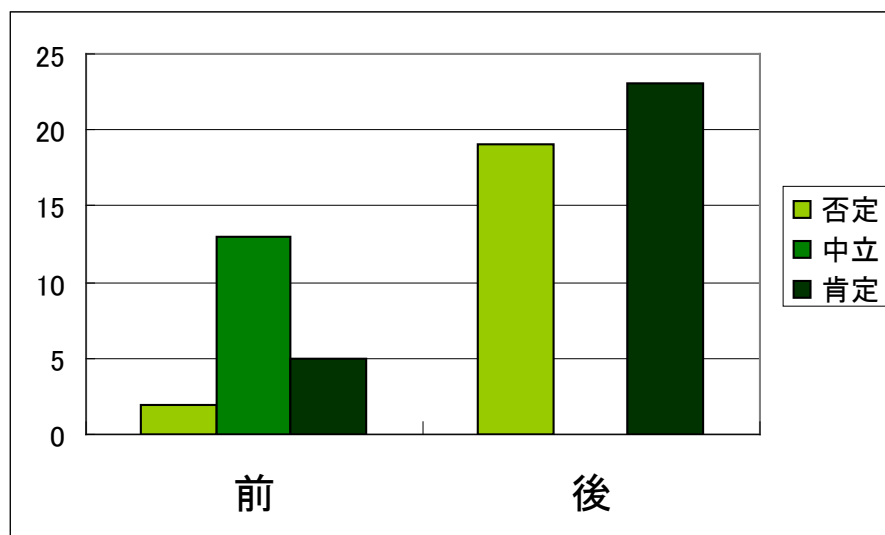


図2 グループ活動について、否定的意見(薄い緑)、中立的な意見(普通の緑)、肯定的な意見(濃い緑)が書かれていた記述数(一人で否定、肯定両方かかれた場合、両方にカウントしてあります)。

数を見ていただくだけでなく、具体的なお意見を表2(次ページに続きます)にリストアップしました。あのワークショップが皆さんにとってどんな体験だったのか、また振り返ってみて気付かれたことなどがありましたら info@coref.u-tokyo.ac.jp までご連絡いただければ幸いです。

表2 グループ活動の是非

プラスの意見	マイナスの意見
取組みが真剣になる	準備、活動に時間がかかる
それぞれの本音が出る	テーマの与え方、既習程度の揃え方などが困難
他人の新鮮な感覚に出会える	独習より時間がかかる
みんなの意見、他の人の考え方参考になる	活動が分散的になる
多角的、多面的になる	興味がないと深まらない

プラスの意見(続き)	マイナスの意見(続き)
多面的にモノを見ることができる	動機が弱いと本当の話合いにならない
知識が広がる、深まる	内容より人への気遣いが必要になる
話合いの幅が広がる	声の大きな人が発言しがち
様々な意見が出てきておもしろい	構成メンバーにより質がばらつく
雑談の中から新しい智が得られる	まとめるスキルのある人がいないと成立しない
自分の考え以外のことを聞ける	あまりに考えが違くと批判しにくい
自分の考えていない面が指摘される	話合いを修正して行くことが難しい
他人が自分の思考のリソースになる	人から聞くと判った気になってしまう
人から聞いたことを全体で考えることができる	学んだ知識の信頼性が保障されない
話し合いながら自分の考えをまとめることができる	学者の見解が聞きたい
自分の概念変容の手がかりになる	自分の考えがないと討論にならない
自分独自に構造化した知識が得られる	内容を正確に把握するのは相当難しい
知識の構造化が促進される	説明しようとするのと理解しようとするとは違う
情報、ストーリーが共有できる	
対話の中での気づきで知識が再構築される	
比較的短時間に深い知識を得ることができる	
自己の理解を深めるのに大いに役に立つ	

プラスの意見は、「多様な意見が聞ける」といった客観的な観察から、その多様な意見に触れることによって自分の考え方が変わってゆくことの面白さを明示的に書いてくださっている意見まで、深い考察が起きていたと思います。マイナスの意見も、活動そのものの特性についてのコメントから、あのような活動をとおして得られる考え方や知識についての考察まで、多くの意見を頂くことができました。今後さらに工夫して行きたいと思います。ご苦労様でした。

なお、当日のワークショップの様子をまとめたポスターを同封しました。撮影させていただいた画像を使っておりまして、近々ポータル上でも公開したいと考えておりますが、お気になられるところはありませんでしょうか？ご意見がありましたら、これも info@coref.u-tokyo.ac.jp までご連絡下さい。今後の参考にもさせていただきますと思います。

当日はありがとうございました。来年度の活動については鋭意計画中です。具体化し次第ご連絡差し上げます。CoREFのページも時々ご覧下さい。またお目にかかれる折を楽しみにしております。